開催館名　沖縄県立博物館・美術館

企画展名　海を越える人々（前期）　琉球と倭寇のもの語り

開催期間：2023年9月22日（金）～2023年11月19日（日）









【企画展の内容・目的】

■東アジアの海を通じて人々がどのような交流を行ってきたのかを文献、絵画、考古資料を通して見ていく。
東アジアの人々が１５世紀に海を越えてきた背景やその事象を通して成立してくる中世東アジア世界について触れていく。
琉球が海を往来して築き上げた交易国家の実像について、倭寇、朝貢、冊封をキーワードにして迫っていく。

■関連催事として文化講座、学芸員講座といった当展示会の内容に深く関係する話題を盛り込んだ講座を実施し、また関連シンポジウムでは４名の研究者による討論を行い、海の歴史について興味深い視点が多くあることを提示することができた。と同時に海の学びの面白さを提起することができたものと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：2023 年9月２２日（金）～2023 年１１月１９日（日）

■開催場所：沖縄県立博物館・美術館特別展示室１、企画展示室

■入場者数：５８２９人



沖縄県立博物館・美術館　外観



企画展会場　入口



プロローグ



第１章　倭寇の姿とその動き





第２章　倭寇の活動時期に展開された琉球の交易



第３章　倭寇の足跡を追い求める



エピローグ

展示の内容構成としてはプロローグにて琉球列島を中心にして倭寇の登場について解説し、「第１章　倭寇の姿とその動き」では主に中国大陸沿岸部における倭寇の実態を関連する絵画史料、文献史料を展示して解説した。「第２章倭寇の活動時期に展開された琉球の交易」琉球の交易が倭寇とどのように関係をもって展開したのかを絵画史料、考古資料を展示して開設した。第３章では倭寇が活動した痕跡を秋からにしようとした２名の研究者を紹介し、倭寇とはどのような存在であったのかを示し、エピローグでは現在の沖縄県内の港と物流から倭寇が活動していた時期から如何に安全な海域になったのかを紹介し、海を歴史的に見れば様々な人々が関係し、そして地域間を結ぶ役割を海が果たしてきたのかを観覧者に示していくことができた。

【来館者の声】

◯回答内容Ａ
「海を越える人々」を見て倭寇の時代から現代まで水面（海面）が繋がっていることに感動しました。
◯回答内容Ｂ
沖縄の海だけでも守りたいと感じた。
◯回答内容Ｃ（海の学びに繋がるもの）
沖縄に移住してきて海という角度から知ることができた。
◯回答内容Ｄ（海の学び以外のものなど）
琉球と倭寇と中国との関係、「海上の道」について新たに考えさせられました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■開催期間：2024年2月17日（土）～2024年3月22日（日）

■開催場所：さんごゆんたく館展示室

■入場者数：２６９人



展示会場外観　さんごゆんたく館



プロローグ









会場内の展示風景

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【企画展の内容・目的】

■東アジアの海を通じて人々がどのような交流を行ってきたのかを文献、絵画、考古資料を通して見ていく。
東アジアの人々が１５世紀に海を越えてきた背景やその事象を通して成立してくる中世東アジア世界について触れていく。
琉球が海を往来して築き上げた交易国家の実像について、倭寇、朝貢、冊封をキーワードにして迫っていく。

■沖縄県立博物館・美術館へ来館する機会が限られる遠隔地の離島においても今回の事業をより広く知っていただくために阿嘉島にてミニ企画展を実施する。

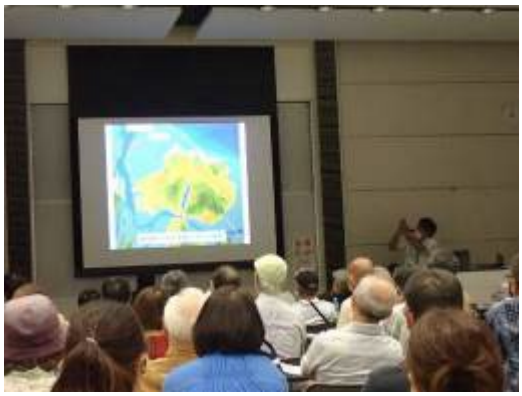
2．関連事業の内容

■学芸員講座（企画展プレイベント）倭寇関連の史跡を読み解く①

【開催日時】2023 年9月2日（土） １４：００ ～ １６：００
【開催場所】沖縄県立博物館・美術館講座室
【参加者数】８０人
【実施内容・目的】

●企画展『海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り』の開催告知を目的とした当館学芸員の山本正昭の講演を基にしたプレイベントで、展示内容に関わる倭寇について、主に中国大陸沿岸部、福建省内に残る倭寇に関係した史跡について紹介すると共に、海を越えて様々な人々が 14 世紀後半から 16 世紀中頃にかけて活動していったことを解説した。また、講座の様子については当館の YOUTUBE おきみゅーちゃんねるにおいて、動画公開している。海の歴史をより興味を持ってもらうことを目的に分かりやすく話を行った。





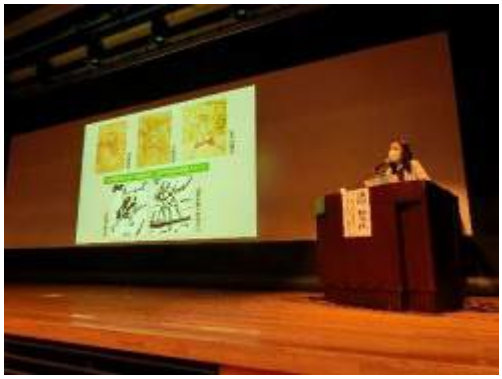

講座の様子

中国大陸でも琉球列島に近い福建省に残る倭寇関係の史跡について触れた。具体的には城郭遺跡、のろし跡など、明朝が倭寇に対抗するために 14 世紀後半に築いた海防施設や民間人による倭寇対策の城郭などから、海を越えて来る倭寇の実態を紹介し、東アジア海域史の一端について学びの切っ掛けを提供した。

■文化講座『倭寇図巻をよむ』

【開催日時】2023年9月30日（土） 14：00 ～ 16：00
【開催場所】沖縄県立博物館・美術館講堂
【参加者数】１１４人
【実施内容・目的】

●東京大学史料編纂所が所蔵する『倭寇図巻』は、海の向こうからやってきて、掠奪放火等の狼藉を働いた倭寇を、官軍が迎え撃ち勝利したさまを描いた絵巻である。倭寇を描いた唯一の彩色画として、教科書にもしばしば掲載され、倭寇のイメージを形作ってきた。５m以上にわたって展開される精彩に富んだ場面のなかでも、水上合戦の部分は特によく知られている。このように著名な『倭寇図巻』を東京大学史料編纂所の須田牧子氏を招聘し氏による研究成果から読み解きを行い、海を舞台にした人々の姿について知ることで、海の歴史的な役割を学んでいった。







講座の様子

10年ほど前、『倭寇図巻』の水上合戦の部分を赤外線撮影したところ、「大明神捷海防天兵」という文字が発見され、倭寇と戦っている官軍は、明朝の軍隊であることが確定されました。本講座では、『倭寇図巻』が描く物語とその背景とを、この赤外線撮影の成果も含めた最新の研究をもとに読み解いた。絵巻物の分析結果から様々な歴史的事実が炙り出されたことで、企画展『海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り』における展示物の理解を深めることができた。と同時に『倭寇図巻』に描かれた画像の一端を解明できたことで更なる海の歴史への理解が深まった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■令和５年度博物館企画展開催記念シンポジウム

『琉球の海、倭寇の海』

【開催日時】2023年10月8日（日） １４：００ ～ １６：００
【開催場所】沖縄県立博物館・美術館講堂
【参加者数】１９８人
【実施内容・目的】

●14世紀から16世紀にかけての東アジア海域史の最新研究を文献史と考古学から４名の研究者を招聘して、報告と討論を行った。文献史学からは九州大学の荒木和憲氏、東京大学史料編纂所の黒嶋敏氏、考古学から国立歴史民俗博物館の村木二郎氏、伊豆の国市教育委員会の池谷初恵氏から各報告を賜り、最後に討論を行い、海の歴史について総括した。

一般参加者からの質疑も多く見られたことから、東アジア海域の歴史に興味を持っている方が多くいることを実感した。それと共にこのシンポジウムを通して海の歴史への理解が深まったものと思われる。









各報告の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。




討論会の様子

分野を越えて第一線で活躍する文献史学、考古学研究者計４名による東アジア海域の歴史について、話を賜った。様々な視点を提示したと共に、未だ解明されていない海の歴史について明らかにすることができたものと思われる。新たな研究課題がこのシンポジウムによって示されたことから、海の歴史についての興味の幅を広げることができたものと考えられる。

■琉球と倭寇のもの語り 関連イベント

交易で使われた琉球の銭「世高通宝」をつくってみよう

【開催日時】2023年10月22日（土） 10：00 ～ 11：30
【開催場所】沖縄県立博物館・美術館実習室
【参加者数】１５人
【実施内容・目的】

●14世紀後半から16世紀中頃にかけて東アジア海域では陶磁器や織物、工芸品といった物品が往来した。その中で最も多く海を越えて流通したのが銅銭である。琉球王国では15世紀中頃から後半にかけて３種類の銅銭を独自に製作して、海外諸地域と交易する上で流通させた。そのうちの１種類である「世高通宝」を銭づくりワークショップとして実施し、海を越えた品物について考え、海の歴史を学ぶ機会とする。「世高通宝」のレプリカ作製はまず、特殊樹脂製の鋳型に錫と鉛の合金を流し込んで型取りをする。できた粗銭をヤスリなどで丸く削って成形して完成となる。



ワークショップ実施状況

第一尚氏の最後の国王である尚徳王が命じて作らせた琉球銭・世高通宝を錫と鉛の合金を鋳型に流して作っていくワークショップ。
世高通宝をはじめとする琉球銭は日本列島でも交易のため使われていたことから、海を越える人々の姿を知るアイテムになるとともに海を越えたモノを知る契機になるものと思われる。

沖縄県立博物館・美術館

海を越える人々（後期）旧石器時代の人類-海を越えた最初の人々-

開催期間：2023 年 12 月 12 日（火）～2024 年２月 12 日（月）



ロビー展示



第５章　海を越えた最初の人々



関連催事　「骨学セミナー沖縄版」



シンポジウム「新しい」港川人の時代

【企画展の内容・目的】

■ 琉球列島に海を越えて最初にやってきた旧石器時代の人類に焦点を当て、海域に人類がどう適応し進出していったのかを豊富な展示品を通じて紹介する。

■ 琉球列島の旧石器時代遺跡の調査研究の最前線に立つ研究者を招いて、一般向けの講演会を実施することで、海に進出した最初期の人々に関する学びのきっかけ作る。

■ 映画「スギメ」の上映会やお菓子作り、食を通じた体験学習を企画することで小さな子どもでも海を越えて最初に沖縄へやってきた人々への関心を持てるような機会を作る。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

1．企画展示の内容

■開催期間：2023 年 12 月 12（火）～2024 年2月 12 日（月）

■開催場所：沖縄県立博物館・美術館　特別展示室１・２、企画展示室

■入場者数：7,269 人



沖縄県立博物館・美術館　外観



企画展会場　入口



ロビー展示



第１章　人類の進化



第２章　旧石器時代の環境

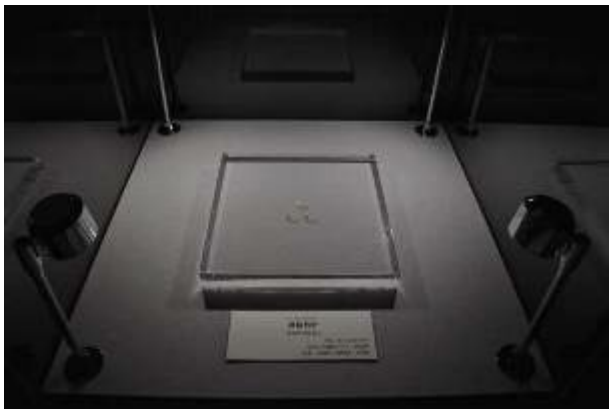


第３章　旧石器時代の暮らし

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



第４章　旧石器時代人のこころ



第５章　海を越えた最初の人々①



第５章　海を越えた最初の人々②



第５章　海を越えた最初の人々③



第５章　海を越えた最初の人々④



第６章　彼らは私たちのなかにいる

エントランスホールにおいて国立科学博物館が実施した「３万年前の航海 徹底再現プロジェクト」で制作・使用された丸木舟「スギメ」やその制作に用いられた石斧を展示し、旧石器時代人が海を越えて琉球列島へたどり着くためにはどのような航海技術を備えていたのか考えるきっかけを提供した。

展示会場内においては、人類の進化やアフリカからの拡散についての概要を展示物によって紹介した上で、最初の琉球列島の居住者である旧石器時代人の人骨そのもの（港川人３号・４号）や彼らの暮らしぶりが明らかとなったサキタリ洞遺跡からの出土物（世界最古の貝製釣針、モクズガニやカワニナなどの食糧残滓、貝製装飾品）を紹介し、海を越えた最初の人々がどのような姿・形をしていて、どのような暮らしを送った人々であったのかを学ぶ機会を提供した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯ 海域は地球の歴史でみると常に変化しそれにより生物の多様性、進化が顕著に見られる（70 代 女性）。
◯ 昔の人は海で使う道具をどんな工程をへて改良をしていったのかな、と不思議に思いました（30 代 女性）。
◯ どうやって人が海を渡って来たか、氷河がどうやってできたか知ることができた（30 代 女性）。
◯ 自分がここで生まれるまでの人類の過程がつながる感じがしました（40 代 女性）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2. 関連事業の内容

■ 文化講座１　骨学セミナー沖縄版

【開催日時】2023 年 12 月 16 日（土）14：00 ～ 16：00
【開催場所】沖縄県立博物館・美術館　3F　講堂
【参加者数】150 人
【実施内容・目的】

- 海を越えて琉球列島にやってきた人々を探るためには、人類化石や動物化石の分析が重要となる。そこで、国内有数の骨学のスペシャリスト３名を招き、講演会を行った。展示会場で紹介している旧石器時代の人類化石や動物化石を調べるための基礎となる骨学についての特別な講義を通じて、資料から様々な情報を読み取る方法を学ぶことを目標とした。



開催場所の全景の様子



〇〇〇の様子





奈良貴史氏によるネアンデルタール人とホモ・サピエンスに関する講演の様子（左上、右上）。佐藤孝雄氏による縄文犬に関する講演（左下）。澤田純明氏による骨組織に関する講演（右下）。
人類史上初めて長距離航海を成し遂げたホモ・サピエンスの進化の隣人であるネアンデルタール人について考えることは、どうして私たちが海を越えて拡散したのかを考えるきっかけを与えてくれると考えられる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯ 質問に丁寧に答えてくださり、ありがとうございました。動物によってオステオンの大きさなどに違いがある理由が解明されるのを心待ちにしています（30 代 女性）。
◯ ネアンデルタール人がなぜ絶滅したのか興味を持ちました（20 代 女性）。
◯ 骨を調査することによって、人々の暮らしや犬との共存などいろんなことを知ることができるところがおもしろかったです（20 代 男性）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ 体験教室１　お菓子を作りながら旧石器時代を学んで食べよう！

【開催日時】2023 年 12 月 23 日（土） 14：00 ～ 16：30

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館　博物館実習室

【参加者数】８人

【実施内容・目的】

- 海を越えて沖縄へやってきた旧石器時代の人々が目にしたであろう絶滅したリュウキュウジカの化石を観察しながら、その形をお菓子に変換することで楽しく動物化石を学ぶ。
- 展示資料や展示テーマへの入り口をより広げることを目標とした。









お菓子作り考古学者の下島綾美氏を講師に、海を越えて最初に沖縄へやってきた人々が見ていたであろうリュウキュウジカの化石レプリカや同じシカのなかま（ニホンジカ、ヘラジカ、オオツノジカ）の骨をじっくりと観察し、その特徴を自分たちなりに捉えながらブールドネージュ風のクッキーにその形を変換した。

海の学びに直接むすびつけづらい内容ではあるが、海を越えた最初の人々のことを調べるための化石研究の手法の一部を楽しみながら学ぶことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯ 最初のレクチャーがとても興味深く、クッキー作りも楽しかったです。展示会を少し見れたのもよかったです。ありがとうございました。（42 歳 女性）

◯ 話しはじめるととまらない子ですが、優しく対応してくださりありがとうございました。歯をほめてもらえて親も嬉しかったです。（8 歳 男性の保護者）

◯ 観察の際、測る大切さを学びました。（40 歳 女性）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ 体験教室２　サキタリ洞の味！

【開催日時】2024 年１月７日（日）　14：00 ～ 16：30

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館　博物館実習室

【参加者数】９人

【実施内容・目的】

●海を越えて沖縄へやってきた旧石器時代の人々はモクズガニを好んで食べていたことがサキタリ洞の調査研究で明らかになっている。このことを受けて日常私たちはあまり口にする機会は少ないけれども、祖先たちが好んだものを実際に調理して味わうことを通じて、断片的で一見分かりづらい先史時代の考古学や人類学の資料に親しむきっかけを作ることを目的とした。









沖縄の旧石器時代人（サキタリ洞人）が好んで食したモクズガニを参加者とともに調理して味わった。体験イベントの前に沖縄の旧石器時代遺跡やモクズガニの生態等についてレクチャーし、調理・実食後に展示との関連性について説明することで、展示物への興味関心を高め、旧石器時代への理解を深めるような工夫を行った。

【来館者の声】

○ わかりやすく楽しかったです。また、ぜひ機会がありましたら参加させていただきます！（40 代 女性）

○ とても有意義な時間でした。今度ゆっくり展示物を見学しに来ます。初めてのイベントに参加でしたが、次回からも積極的に参加したいです。よろしくお願いします（50 代 男性）。

○ うまい！（おいしかった）ありがとう！（かんしゃ）（9 歳 男性）

■ 文化講座２ 「新しい」港川人の時代

【開催日時】2024 年 1 月 20（土）14：00 ～ 16：30

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館　博物館講堂

【参加者数】182 人

【実施内容・目的】

● 海を越えて最初に沖縄へやってきた旧石器時代人を代表する約 22,000 年前の化石人類である港川人。その港川人について第一線で調査研究を進める研究者３名を招き、研究の最前線で明らかになってきた沖縄の新しい旧石器時代像について分かり易く一般に公開する。





港川人１号のミトコンドリア DNA 解析について水野文月氏、サキタリ洞遺跡の最新の調査研究成果やリュウキュウジカの古生態学的な研究成果を藤田祐樹氏、港川人の形態学的な特徴と「３万年前の航海 徹底再現プロジェクト」について海部陽介氏から講演をいただき、海を越えて最初に沖縄へやってきた旧石器時代の人々についての理解を深めるきっかけを提供できた。質疑応答の時間には演者と参加者との活発なやりとりがなされ、沖縄に暮らした旧石器時代の祖先への関心が高いことを実感するとともに、この分野への期待が大きいことも感じられた。

【来館者の声】
◯ 海は自分が思っていた以上に季節や天候、風、場所などによって大きく変化すると知り、驚きました。そんななか、海を渡った祖先のすばらしさを改めて感じとることができました（10 代 女性）。
◯ 海は沖縄の土台。ウチナーンチュはもっと海について学び、海を大事しないといけない。若い世代の教育にそれを取り入れないといけない（70 代 男性）。
◯ 昔の人々が海を越えてきたということのすごさ、その意味について考え、古代の人々を尊敬する気持ちが強まりました（40 代 女性）。

■ 学芸員講座 「旧石器時代の人類」展をもっと楽しむ

【開催日時】2024 年２月１０日（土）14：00 ～ 16：30

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館　博物館講座室
【参加者数】73 人
【実施内容・目的】
● 「旧石器時代の人類」展を企画するプロセスについて裏話交えながら、展示をより楽しめるように会場内では説明しきれなかったことを伝えることを目指した。講座のあとに展示解説会を２回にわけて実施した。





「旧石器時代の人類」展の構成と内容に関して展示会場内の資料と解説だけでは伝えきれなかったことを担当者の意図や裏話を交えながら参加者に伝えた。講座のあとには受講者を対象とした２回に分けた展示解説を行い、アフリカに誕生した私たちの祖先が世界に拡散し、海を越えて沖縄にたどりつくまでの道筋を参加者との対話を交えながら伝えた。

【来館者の声】
◯ 沖縄や日本列島が旧石器時代から海を通じて世界とつながっていたことが分かりました（30 代 女性）。
◯ 人や動物ほか文化も含めて海から入って来ており、すべての入り口を感じた（70 代 男性）。
◯ 古代の航海はとても興味深いなと思いました。他の地域とのつながりなどももっと知りたいと思いました（30 代 女性）。

■ 出前授業 海を越えて沖縄へ最初にやってきたのはどのような人々だったのか？

【開催日時】2023 年 11 月 10 日（金）14：00 ～ 15：00

【開催場所】沖縄県立向陽高等学校　体育館

【参加者数】２４０人

【実施内容・目的】

● 旧石器時代の重要遺跡である港川遺跡やサキタリ洞遺跡のすぐ近くに位置する沖縄県立向陽高等学校の第１学年の生徒全員を対象に、人類進化の概要の説明に始まり、港川人の人骨化石の特徴やサキタリ洞遺跡から見つかった資料から明らかになってきた旧石器時代人の暮らしぶりについて解説することで海を越えて最初に沖縄島で暮らした人々がどのような人々だったのかを伝えた。





スライドを用いた解説に加え、チンパンジー、ネアンデルタール人、港川人１号の頭骨模型を間近に見えるところに並べ、話の中身と博物館資料とを結びつけて捉えられるような工夫を行った。こうした体験を通じて海を越えて沖縄にやってきた旧石器時代人への学びのきっかけを提供することができた。

【事業全体のまとめ】

目標入場者数 10,000 人を上回る 14,436 人の入場者を迎えることができたので、数値的な目標は十分達成されたと思われる。関連催事においても多くの参加者があり、今回の企画展・特別展を通じて海の学びを広く発信できたことは大きな成果である。

ただし、前期の展示の内容は歴史的な視点に重点が置かれていたため、歴史分野以外で海について興味を抱く内容については手薄であったように思われた。また、東アジア地域のみならず大航海時代としてテーマを広げた方が面白いという意見を来館者から賜った。この点については東南アジア並びにヨーロッパ方面との交易についてテーマを広げても良いと思われた。

後期の展示テーマについては、アフリカで誕生した現生人類が海を越えて海域に拡散していく中で沖縄に長距離渡海をなしとげて辿りついたことに驚きを感じる来館者の声が多数届いた。沖縄には旧石器時代の人類化石や動物化石など、海を越えた最初の人々について知るための豊富な資料が残されており、今後の発見も期待されている。沖縄の海とヒトとの関係の原点である旧石器時代から海の学びを創出する機会を得たことに深く感謝申し上げたい。

中世と旧石器時代という異なる２つの時期を扱う事業であったが、「海を越えた人々」という共通のテーマは今後も掘り下げていくべき重要な「海の学び」のテーマであることが認識され、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．　環境省慶良間保護官事務所	企画展『海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り』を規模縮小して座間味村阿嘉のさんごゆんたく館にて令和６年２月 17 日から３月 22 日までの期間で展示を開催する。
2．　株式会社南都 （おきなわワールド・ガンガラーの谷）	事業主体の調査研究への協力、広報活動、ボランティア活動。
3．　国立科学博物館	展示資料、パネル、タペストリー、映像資料の利用と付帯事業実施への協力。
4．　東京大学総合研究博物館	展示資料の利用と付帯事業実施への協力。
5．　新潟医療福祉大学自然人類学研究所	展示資料の利用と付帯事業実施への協力。
6．　慶應義塾大学民族学考古学研究室	展示資料の利用と付帯事業実施への協力。

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．オキナワグラフ 2023 年 10 月号	「海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り」2023 年 10 月 11 日
2．沖縄テレビ　OTV ニュース	「海を越える人々（前期）琉球と倭寇のもの語り」2023 年９月 19 日
3．NHK　おきなわ HOTeye	「沖縄の旧石器時代を伝える展示会」2023 年 12 月 12 日
4．オキナワグラフ 2024 年１月号	「旧石器時代の人類」2024 年１月１日

以上